

2023年9月号

東京ビジネスクリニック通信

～今年もやってきた、インフルエンザ～

今シーズンは早い時期に流行の兆し！？

今世の中はコロナウイルスの第9波が押し寄せているところですが、9月になりインフルエンザの感染者が増加傾向にあります。通常は気温と湿度が著しく下がる真冬に流行するのがインフルエンザの特徴でしたが、コロナによる感染症と社会や人間の免疫体系の変化により、インフルエンザの流行時期にも大きな変化が見られています。インフルエンザは非常に感染力が強いことが特徴で、毎年全世界では約10億人、日本では約1,000万人がかかる最大の感染症です。これは昨今世の中全体を覆っている新型コロナウイルスの感染者数と比べても、同等かそれ以上の規模です。また今年の特徴として、オーストラリアでの流行時期から計算すると、秋口の早い時期から始まるかもしれません。今、私たち個人そして社会全体がインフルエンザ流行の予防としてできる最大の備えは、**インフルエンザワクチン**を**早期に多くの人が接種する**ということに他なりません。



1

ワクチンの株は誰がきめているの？

インフルエンザウイルスの流行は全世界で膨大なデータがとられており、流行の種類や状況をリアルタイムに詳しく把握しています。そうしたビッグデータを元にWHO（世界保健機関）が毎年そのシーズンの流行株を発表しており、日本ではさらにその情報を元に厚生労働省と国立感染症研究センターの特別チームが日本で製造するワクチンの株の種類を決定しています。



2

妊娠中にワクチンは打っていいの？

問題ありません。インフルワクチン1本あたりに約25μgのエチル水銀が含まれますが、この25μgとは人体に影響しえない極めて少ない量です。私たちが一般によく食べる魚にも含まれているものと同程度とされています。海外でも妊娠中にワクチンを接種した場合の安全性について、接種をした場合としない場合で、流産や奇形児の発生率に差がないという研究データがほとんどです。



3

ワクチンの副反応はあるの？

インフルエンザワクチンは副反応が少ないことで有名です。打ってはいけないのは、同ワクチンにより重症なアレルギー症状（アナフィラキシー反応）を起こしたことがある人のみです。喘息持ちの人、てんかんや痙攣の既往のある人、免疫不全の病気を持った人、心臓や肝臓や腎臓に持病のある人もワクチンを打っても問題はなく、むしろこのような方に接種が強く推奨されています。

2023-2024 シーズン

インフルエンザHA ワクチン製造株



A型株

A/ビクトリア/4897/2022
(IVR-238) (H1N1)
←新しい株

A/ダーウィン/9/2021
(SAN-010) (H3N2)

←2022年度と同様の株



B型株

B/ブーケット/3073/
2013 (山形系統)

←2022年度と同様の株

B/オーストラリア/
1359417/2021(BVR-26)
(ビクトリア系統)

←2022年度と同様の株

【翻訳】

A型/ビクトリアという
地名で分離報告された
/1番目に分離された/2020
年に分離された、IVR-217
という型番、H1N1の表面
抗原を持つウイルスという
意味です。